



2026年4月30日

各 位

会社名	ポ ー ル ト ウ ウ イ ン ホ ー ル デ ィ ン グ ス 株 式 会 社
代表者名	代表取締役社長 橋 鉄 平 (コード番号：3657 東証プライム)
問合せ先	取締役 CFO 山 内 城 治 (Email : ir@ptw.inc)

投資家のみなさまからのご質問について（2026年1月期 決算発表後）

当社は、2026年3月17日の2026年1月期 決算発表以降に、投資家のみなさまより頂戴した主なご質問に対する回答内容について公表いたしましたので、お知らせいたします。

本開示は情報発信の強化と、株主・投資家のみなさまのご理解を一層深めることを目的に、当社が自主的に実施するものであり、回答内容は開示時点での情報を記載しております。時点のずれによって多少の齟齬が生じる可能性があります。直近の回答内容を最新の当社方針として記載しております。

以 上

投資家のみなさまからのご質問について（2026年1月期 決算発表後）

■ 業績関連

Q1：再編期に対する経営としての総括

2022年、当社グループは将来の成長を見据えて国内主要子会社を統合し、当社も「ポルトウウィンホールディングス」として再スタートしました。拠点集約やシステム統合、幹部人材の採用により一時的に費用は増加しましたが、事業間連携の強化や職場環境の改善を通じて、従業員満足度の向上及びコーポレート機能の強化を実現しました。海外事業では、ロシア・ウクライナ情勢の影響や顧客環境の変化等、想定外の外部要因により混迷しましたが、概ね対応を完了しております。

また、メディア・コンテンツ事業からの撤退は、グループ統制と経営効率を見直す重要な転機となりました。同事業においては、「エンターテインメント 360°サービス」の展開を目指しましたが、収益モデルの確立には至らず、昨年6月に祖業であるBPO事業に立ち返り、収益性回復を最優先とする方針へ転換しました。

2026年4月23日に開催された当社第17回定時株主総会においては、社外取締役からの評価を求める質問もいただきました。これらの取り組みは企業価値向上を目指した戦略的投資であり、取締役会において必要な議論を経て推進してきた旨を、上記の見解に付け加える形で回答しております。

3期連続で最終利益が赤字となり、株主・投資家のみなさまに多大なご心配をおかけしたことを、心よりお詫び申し上げます。多面的な投資判断の必要性等、得られた教訓を活かし、再成長に向けた経営に取り組んでまいります。

Q2：当期（2027年1月期）業績予想の蓋然性に関する回答

メディア・コンテンツ事業からの撤退等による事業再編や、一時的な需要減少が見込まれる海外ソリューションにおけるレイオフ費用の発生等により、前期（2026年1月期）までの収益性は悪化しておりました。これらの要素を積み上げるだけでも一定の蓋然性が担保できると考えておりますが、「再成長期」の始まりと位置付ける当期は、まずは3期続いた最終赤字から脱することを最優先に取り組んでおります。

なお、2026年3月17日に公表した業績予想においては、第1四半期時点における営業利益の赤字と、第2四半期（中間期）時点における最終利益の赤字を見込んでおります。詳細は同日公表した決算補足資料等をご参照ください。引き続き黒字化時期の前倒しを目指して、事業に邁進してまいります。

Q3：経常利益と最終利益の差額に関する回答

業績予想において特別損失の発生等は見込んでおらず、差額の多くは税金費用です。海外ソリューション全体としては黒字であるものの、黒字子会社と赤字子会社が混在し、現状、赤字子会社では繰延税金資産を計上できないことから、当社グループの実効税率は一般的な水準と比較して高位で推移しております。

Q4：中長期的な見通しに関する回答

当社グループの主な収益は、受注したゲームデバッグやソフトウェアテスト等の案件に掛かる、工数に応じて生み出されてきました。これらのサービスは、私たち人間にとっての「遊びやすさ」や「使いやすさ」を追求するものであり、本質的にすべての工程を「AI技術によって置き換える」ことはできない領域だと考えております。効率化の可能な99%の部分に対して、積極的にAI技術を取り込みつつ、残る1%やその先を追求していく中で、これまでの「労働集約型」とは異なる「知識集約型」のビジネスモデルへ転換を進めてまいります。

このような環境下で、当社は収益性の改善を優先するべく、メディア・コンテンツ事業から撤退しております。同事業は、一時は全社売上高の14%を占める規模まで成長していた反動もあり、当社は単純に売上高を追求するフェーズにはないものと考えております。

過去4期にわたって取り組んだ、事業再編等による収益性の改善効果を今後の実績によって評価しつつ、日々進化するAI技術の進歩に合わせた現実的な目線をもって、上記のような前提を踏まえた新たな目標を設定し、株主・投資家のみなさまへお示ししていきたいと考えております。

Q5 : ゲームデバッグの収益性や今後の成長性に関する回答

人件費の高騰等を背景に、従来のような高い収益性を確保する上で課題を抱えている一方で、家庭用ゲームの新たな機種発売、PC やスマートフォン向けゲームの普及や e スポーツの一般化により、ゲーム市場自体は世界的に拡大を続けております。ゲーム分野そのものの成長性が高いことから、客観的な視点から品質向上を支援するゲームデバッグの BPO サービスについても、海外を中心に高い成長性が見込まれるものと認識しております。

特に、スマートフォンの性能向上に伴い、スマホ向けゲームの仕様やシステムは高度化・複雑化しており、それに比例してデバッグ需要も増加しています。加えて、従来は特定の専用ハードを前提として開発されていた家庭用ゲームにおいても、近年は PC 向けプラットフォームを含む複数のハードでプレイ可能なタイトルが増加しています。こうしたマルチプラットフォーム展開では、媒体ごとにデバッグが必要となるため、当社グループにおいても、スマホ及び PC 向けゲームを対象としたゲームデバッグ案件は増加傾向にあります。

■ その他

Q6 : IR 活動に関する回答

当社では、株式市場におけるプレゼンス強化に向けた取り組みとして、従来の IR 活動を見直しました。その結果、約半年間で当社サイト上に掲載する開示情報に対するアクセス件数は過去最高を継続的に更新し、株主数は前期末比：37.5%増加した他、4月23日に開催した株主総会には2019年4月（コロナ禍前）以来、最多となる株主のみなさまにご出席いただく等、認知向上施策に対する一定の効果が見られたと考えております。

当期第1四半期（2026年2月～4月）中に配信した、主なコンテンツは以下のとおりです。

- ▶ Palabra 株式会社（2026年4月9日公開）
映画『ドクちゃん 一フジとサクラにつなぐ愛』バリアフリー版配信記念トークセッション
<https://pdf.irpocket.com/C3657/nX8G/ErOw/RD4r.pdf>
- ▶ ポールトゥウィン株式会社（2026年4月17日公開）
ポールトゥウィンの男性育休取得率、全国平均の約2倍を達成
<https://pdf.irpocket.com/C3657/nX8G/UGMs/qY47.pdf>
- ▶ アナリストレポート
 - Shared Research（2026年4月10日更新）
<https://pdf.irpocket.com/C3657/nX8G/JRer/Ui3U.pdf>
 - Fisco（2026年4月16日更新）
<https://pdf.irpocket.com/C3657/nX8G/DWwz/fVZn.pdf>

個人投資家向け会社説明会（IRセミナー）では、参加者からのご質問に取締役 CFO が直接回答し、その内容を開示しております。こうした取り組みを通じて、事業内容等に対する認知向上を図り、新規投資家のみなさまとの接点を創出することで、市場からの評価全般を見直していただきたいと考えております。その結果として、業績に裏打ちされた企業価値の持続的な向上に繋げてまいります。

- ▶ 会社説明会（イベントス、2026年4月11日会場・オンライン開催）
<https://pdf.irpocket.com/C3657/nX8G/sI4k/Ar0V.pdf>（動画リンク・Q&A）
<https://pdf.irpocket.com/C3657/nX8G/QkhX/RwYU.pdf>（投影資料）
- ▶ 経営者対談動画（イベントス、2026年4月30日公開）
<https://pdf.irpocket.com/C3657/Rytt/PF4e/Sk0o.pdf>

以上

【免責事項】

本資料並びに情報は、いわゆる「見通し情報」（Forward-looking Statements）を含みます。これらは、現在における見込み、予測及びリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。それらリスクや不確実性には、一般的な業界並びに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内及び国際的な経済状況が含まれます。今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正を行う義務を負うもの

ではありません。